

第4回「内航船の日」

下町の銭湯で 「海風を浴びよう」

同じ島国で暮らす仲間として、誰でもが海上物流をイメージする日があていい。

昨年あたりからは「みんなの、内航船の日」を呼びかけてきました。

7月15日…

「その日は港へお船見に」、「海色のシャツを着て外出です、

一人ひとりの記念日「内航船の日」の楽しみ方を見つけて共有したい。そんな島国のライフスタイルの提案は、毎年東京で開催されている「海から届ける写真展」によって育まれた。

「市民社会」と「生活を支える海」。会場となっている下町の銭湯に、奇跡のような接点が生まれた。陸のふだんの生活の中で、目にすることのない洋上の船員たちが届ける「自慢の海」。海から届ける切実なアピール。写真展には毎年、ホンモノの「海風」が舞います。

2019年の「内航船の日」イベントは、東京だけでなく、海洋都市神戸でも盛り上がりました。記念日「内航船の日」の提唱者でもある絵本作家の谷川夏樹さんと鳥瞰図絵師の青山大介さんが、地元の神戸海洋博物館で企画展を開催してくれました。そのタイトルはなんと、「海へ届ける絵画展」。内航船員たちの「海から届ける写真展」に対して、「海へ届ける絵画展」という形で大きな返答がなされたのです。

全日本内航船員の会として、心からの感謝を申し上げます。

2019年の記念日「内航船の日」イベントについて、たいへん丁寧に紹介してくれた内航海運新聞の記事を記録としてご紹介いたします。(全日本内航船員の会 事務局)

内航海運新聞(令和元年7月22日号)の記事を紹介いたします。 以下転載

第4回「内航船の日」

下町の銭湯で「海風を浴びよう」

7月31日まで「海から届ける写真展」開催中

既報のとおり、今年で4年目を迎える7月15日の「内航船の日」を記念したPRイベント「第4回海から届ける写真展」が、全日本内航船員の会の主催により東京スカイツリーのふもとにある下町の銭湯「大黒湯」のロビーで開催中だ。

「内航船の日」とは、内航船が好きで、船員たちと交流してきた一般市民が、「ナナ・イチ・ゴ」→「ナイコー」であることから、7月15日を「内航船の日」にしようと呼びかけ、2015年に日本記念日協会によって認定されたもの。一般市民からの発信であったことが内航海運業界でも大きな話題となった。

今年も昨年に引き続き、記念日当日の昼間に Twitter(ツイッター) のハッシュタグ「#内航船の日」がトレンド欄に登場するなど、年を重ねるごとに市民社会に浸透してき

ており注目度が増している。

4回目となる「海から届ける写真展」では、全国で働く現役の内航船員から寄せられた写真の中から厳選された18点を展示。これまでの3回の写真展では、「船員の海」「仕事の海」「国内物資輸送を守り続ける内航船」をテーマとしてきたが、今回は『みんなで海風を浴びよう!』に決めた。この記念日の成長のように、市民社会の応援の中で育まれていく海運、物流をイメージできるようになった」（全日本内航船員の会・松見準事務局長）。

その背景にあるのは、SNSにおける盛り上がりに加え、海の日・内航船の日を記念したイベントとして、7月9日から21日まで、神戸海洋博物館内展示ギャラリーで絵本作家の谷川夏樹さんと鳥瞰図絵師の青山大介さんの作品を展示する「海へ届ける絵画展」が開催されたことがある。これまでは海から陸に船員が写真を届けていたが、今年は陸からも船員に絵画が届けられ、海と陸が双方向からつながった。

松見事務局長は、「船員1人ひとりの作品からは、鮮やかな優しい色彩とともに、海風がゴーゴーと吹き込んできそう。SNSもあり陸上社会とのつながりが深まっていく中で、やっと『みんなで海風を浴びよう!』と言えた」と説明する。展示される作品を見ると、自分がその場において海風を浴びているような感覚が味わえる。

会場ではこれら写真作品のほか、事務局が「もっと身近に内航船!」をテーマに製作した、内航船の中で生き生きと動き回る子供たちと、内航船の中で暮らす航海士ネコ「カンパチ船長」の姿をパネルで展示。「一般の方はもちろん、内航事業者の方にも『物流のイメージは、これくらい身近であっても良いのだな』と感じてもらいたい」（松見事務局長）。

地元で愛される下町の銭湯「大黒湯」は、日替わりの薬湯や展望風呂、高濃度人工炭酸泉、サウナなどが楽しめ、老若男女問わず多くの人々が利用する憩いの場。その利用者のほとんどが内航海運とは縁もゆかりもないが、湯上がりの休憩中、展示写真を眺める姿が見られた。

同展の開催は7月31日まで（火曜日定休）。「大黒湯」の所在地は東京都墨田区横川3-12-14。東京メトロ半蔵門線、東武伊勢崎線、都営浅草線、京成押上線「押上駅B2出口」より徒歩6分。東京スカイツリーより徒歩10分。入浴料は大人460円、中学生360円、小学生180円、幼児80円。

